

中近世城館確認調査(2) 市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報 8
中津市文化財調査報告 第72集

2015
中津市教育委員会

中近世城館確認調査
(2) 市内遺跡試掘確認調査
市内遺跡発掘調査概報 8

中津市文化財調査報告
第72集

2015
中津市教育委員会

中近世城館確認調査(2) 市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報 8

中津市文化財調査報告 第72集

2015

中津市教育委員会

例 言

一、本書は大分県中津市教育委員会が2014年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。

一、調査は2014年度国宝重要文化財保存整備事業および2014年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

一、調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	廣畑 功（中津市教育委員会教育長）		
調査指導	宮武 正登（佐賀大学教授）		
	中村 修身（北部九州中近世城郭研究会長）		
	小柳 和宏（大分県教育庁埋蔵文化財センター参事）		
	三重野 誠（大分県教育庁文化課主幹）		
調査事務	今津 時昭（中津市教育委員会文化財課長）		
	宇野 真理（	同	管理係長）
	河野さくら（	同	管理係）
調査担当	高崎 章子（	同	主任研究員兼文化財係長）
	花崎 徹（	同	文化財係）
	浦井 直幸（	同	文化財係）
	丸山 利枝（	同	文化財係）

一、中近世城館確認調査を花崎・浦井が、諸田遺跡の調査を花崎が行った。

一、本書の執筆、編集、写真撮影は第1章、第2章を浦井が、第3章を花崎が担当した。

一、遺構の実測、製図などは調査担当者が行った。

一、現場作業、整理作業は下記の皆さんの協力による。（順不同・敬称略）

金丸孝子、中上好孝、野田英幸、久恒義生、磯村義人、黒川安志、後藤満廣、松本浩司、渡邊正一、立澤彩、安倍方恵、岩男純子、衛藤京子、長倉朱見

目 次

例言

第1章	地理と歴史的環境	1
1.	地理的環境	1
2.	歴史的環境	1
第2章	中近世城館確認調査(2)	3
1.	調査に至る経緯	3
2.	調査の経過	3
上秣城跡	3	
平田城跡	5	
第3章	市内遺跡試掘確認調査	12
諸田遺跡	12	
1.	調査に至る経緯	12
2.	調査の内容	12
3.	今後の措置	12

図 版 目 次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	2
第2図	中津市内中近世城館分布図	4
第3図	上秣城跡周辺小字集成図	5
第4図	上秣城跡縄張り図	5
第5図	調査区位置図	6
第6図	平田城跡縄張り図	6
第7図	9面築石欠落部1	7
第8図	9面築石欠落部2	8
第9図	諸田遺跡トレンチ位置図	12

写真図版目次

写真1	上秣城跡近景	10
写真2	横堀①	10
写真3	曲輪Ⅱ土塁	10
写真4	石塔群1	10
写真5	石塔群2	10
写真6	現地指導風景	10
写真7	遠景向かって左、馬溪橋、右は平田城跡	11
写真8	9面南隅角部	11
写真9	9面築石清掃後	11
写真10	9面築石清掃前	11
写真11	9面築石欠落部2	11
写真12	13面築石	11
写真13	諸田遺跡2トレンチ	12
写真14	諸田遺跡5トレンチ	12
写真15	諸田遺跡6トレンチ	12

第1章 地理と歴史的環境

1. 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万6千人、面積491km²を誇り、北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

2. 歴史的環境

市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡で発見されている。縄文時代は上畑成遺跡(43)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見されている。遺跡数は縄文後期から増大する。植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡が挙げられる。法垣遺跡では複数の掘立柱建物が検出され注目されている。弥生時代では前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認される。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。古墳時代の遺跡としては亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられるが、明治時代に調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の西南に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(45)や定留遺跡(47)でまともって発見されている。

古代には7世紀末に白鳳系の相原原寺(6)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、踊ヶ迫窯跡(38)、草場窯跡(37)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては古墳時代から10世紀まで続き緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(60)がある。

中世は、長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世は関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原道跡 | 25. 福島道跡 | 37. 草場竈跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町道跡 | 14. 大池南道跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 睡ヶ道竈跡 | 50. 定留鬼塚道跡 |
| 3. 豊田小学校校庭道跡 | 15. 佐知久保畑道跡 | 27. 前田道跡 | 39. ホヤ池竈跡 | 51. 是徳道跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知道跡 | 28. 森山道跡 | 40. 大谷竈跡 | 52. 田尻大迫道跡 |
| 5. 市場道跡 | 17. 加来居屋敷道跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依道跡 | 53. 舞手橋東段上道跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水道跡 | 30. 大丸川流域道跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是間道跡 |
| 7. 相原山首道跡 | 19. 法垣道跡 | 31. 洞ノ上竈跡 | 43. 上畑成道跡 | 55. 全徳道跡 |
| 8. 鶴市神社真山古墳 | 20. 長者屋敷官衙道跡 | 32. 安平道跡 | 44. 諸田南道跡 | 56. ガラヌノ道跡 |
| 9. 坂手隈城跡 | 21. ボウガキ道跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田道跡 | 57. 合馬道跡 |
| 10. 幣原塚古墳群 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川道跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原道跡 | 35. 才木道跡 | 47. 定留道跡 | 59. 東浜道跡 |
| 12. 勘野野地道跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山竈跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口道跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第2章 中近世城館確認調査(2)

1. 調査に至る経緯

中津市には2003年度段階で約62カ所(詳細不明分含む)の城館が知られていた。これは、大分県教育委員会が平成7年度～15年度まで県内を対象に行った「中世城館等発掘調査事業」(以下、県調査)の成果による。この県調査により中津市内の城館の所在地、残存状況等が整理・確認された。一方、旧郡部は調査が手薄であったため詳細不明とされた城館が多く、その追及は課題として残されたままであった。旧郡部を中心に詳細不明城館の探索及び既知の城館の再確認を行い、開発への備え、重要城館の指定を目指し平成25年度から国庫補助を受け調査を行っている。現地調査などを平成31年度までを行い、32年度に報告書を刊行する予定である。

これまでの中津市教育委員会の中近世城館に対する取り組みは、各種開発に伴う発掘調査事例がほとんどである。史跡整備に伴う確認調査は、中津城跡において平成12年度から進められ、城内の発掘調査によって黒田時代の遺構が確認されている。現在、市指定4件(大畑城跡、一ツ戸城址、平田城址、中津城おかこい山)、県指定3件(長岩城跡、中津城おかこい山、中津城跡)を数える。

2. 調査の経過

今年度は、黒田氏に関係した城館の調査として、上秣城跡・平田城跡の調査を行った。10月には指導者会を開催し、しこ名アンケート方法など調査の進め方についての指導、上秣城跡・坂手隈城跡の現地指導を受けた。

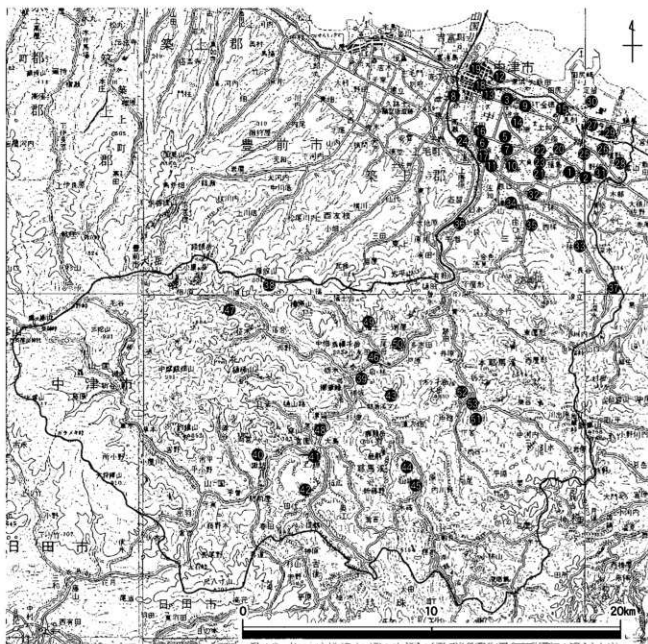
上秣城跡

上秣城跡は、中津市三光上秣に所在する。『豊前古城誌』によると、秣氏代々の居城とされる。秣氏は天正15年(1587)、黒田氏豊前入部に伴いその傘下となり、大畑城の加来統直や犬丸城の犬丸越中守を打ち取ったという⁽¹⁾。

標高61mの八面山から八つ手状に伸びる丘陵先端部にあり、東側の水田との比高差は15mを測る。西側は湯桶池など谷部に造られたとみられる溜め池が存在する。城跡には現在六社神社が鎮座している。遺構が存在する箇所は小字「城」であり、南側に「城山」、東側に「土井ノ下」、北側に「屋敷」「堀田」などの城館関連小字が残る。上秣城の南にある小字「城山」は、城と地続きの地形で南側・東側は地形が下がる。踏査の結果、城館関連遺構は判然としないが、石塔群2を発見している。また、犬丸川を挟んで対岸にも「出口」「土井」などの小字がある。

神社地を中心に南北140m×東西82mの範囲に遺構を見ることができ、主郭は社殿のある38～39m四方の方形の空間の最高所(1)と考えられる。西辺に土塁が残り、土塁は高さ0.5～1mを測る。一方、西から社殿に入る道路や近代の瓦が散乱する築地塀など後世の開発も所々見て取れる。主郭の東と北は曲輪Ⅲ・Ⅳなどの帯曲輪が巡る。曲輪Ⅳ南側の土塁状の遺構は、曲輪Ⅳを削り出した際に残った地形と考えられる。曲輪Ⅲの北側、曲輪Ⅳの東側は昭和年代の土取りが著しく往時の形状は失われている。

主郭南側は横堀①を介して曲輪Ⅱがある。西・南辺は土塁が巡り、西辺土塁下部に戦国期と考えられる宝塔、近世の石塔などが置かれている(石塔群1)。横堀①は幅5m前後を測り、東側で南



- | | | | |
|----------------|-----------|------------|------------|
| 1. 下伊藤田城跡 | 15. 安松遺跡 | 29. 末広城跡 | 43. 高城跡 |
| 2. 上伊藤田城跡 | 16. 福水城跡 | 30. 地頭屋敷 | 44. 高丸城跡 |
| 3. 一ツ松城跡 | 17. 坂手隈城跡 | 31. 野依城跡 | 45. 馬場城跡 |
| 4. 永副城跡 (場所不明) | 18. 中臣城跡 | 32. 北平城跡 | 46. 小友田城跡 |
| 5. 末広城跡 | 19. 中津城跡 | 33. 上林城跡 | 47. 長岩城跡 |
| 6. 法華寺城跡 | 20. 妙相寺城跡 | 34. 田嶋崎城跡 | 48. 松ヶ岳城跡 |
| 7. 八並城跡 | 21. 飯屋敷遺跡 | 35. 岡崎城跡 | 49. 馬台城跡 |
| 8. 宮永城跡 | 22. 田丸城跡 | 36. 土田城跡 | 50. 平田城跡 |
| 9. 鴻の巣城跡 | 23. 福島城跡 | 37. ブリヤネ城跡 | 51. ジョウヤ城跡 |
| 10. 大畑城跡 | 24. 河原田城跡 | 38. 雁股城跡 | 52. 落台城跡 |
| 11. 黒水遺跡 | 25. 中尾城跡 | 39. 築久江城跡 | 53. 古庄屋遺跡 |
| 12. 蠟瀬館 | 26. 犬丸城跡 | 40. 一ツ戸城跡 | |
| 13. 牛神城跡 | 27. 岩丸城跡 | 41. 下城跡 | |
| 14. 池永城跡 | 28. 植野城跡 | 42. 鎌城 | |

第2図 中津市内中近世城館分布図 (S=1/200,000)

へ屈曲し、少し進むとさらに東へ屈曲する。端部は集落道と接しており、横堀を通して主郭に至る城道をここに想定することもできる。曲輪Ⅱの南側は約2m低くなっており、そこに横堀②が存在する。幅5m前後、南から進むと西へ屈曲するが、その先は宅地化されているため旧状は不明である。曲輪Ⅰ・Ⅱの西側に横堀①と接続する横堀③がある。平成13年頃まで存在したが、その後、小字「座主山」で行われた宅地造成に伴い埋められたものと考えられている⁽²⁾。横堀③は北へ進むと東に折れ、城域の北限を形成していると考えられるが、屈曲部から東側は現在農道であるため、この部分が横堀として機能していたかどうかは確証がない。横堀③の南端部は宅地を回り込むように東に屈曲している。

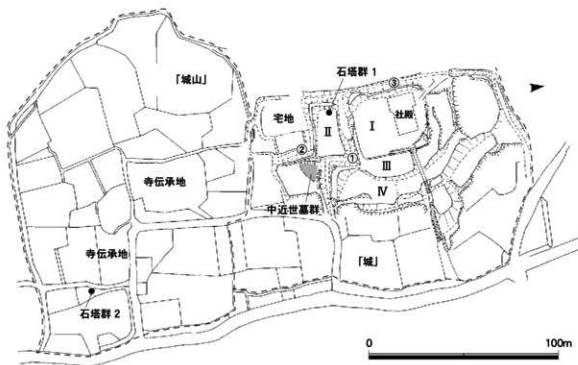
周辺に目をやると神社参道南側や横堀①と接する集落道付近の地割は方形・長方形を呈していることがわかる。小字「城山」にある方形区画内には寺伝承地や石塔群2などがあることから、主郭を軸に家臣の屋敷など何らかの遺構が扇状に展開していた可能性が高い。さらに、現在の集落道を東に延ばした先に横堀①や③が存在していることにも注意する必要がある。横堀の設定と集落地割との関係は今後他事例との比較を通して検討する必要があるだろう。



第3図 上秣城跡周辺小字集成図 (S=1/10,000)

平田城跡

中津市耶馬溪町大字平田に所在する。城は平田集落を見下ろす標高117mの台地先



第4図 上秣城跡縄張り図 (S=1/2,000)
(平成13年度大分県作成縄張り図に追記「」は小字)

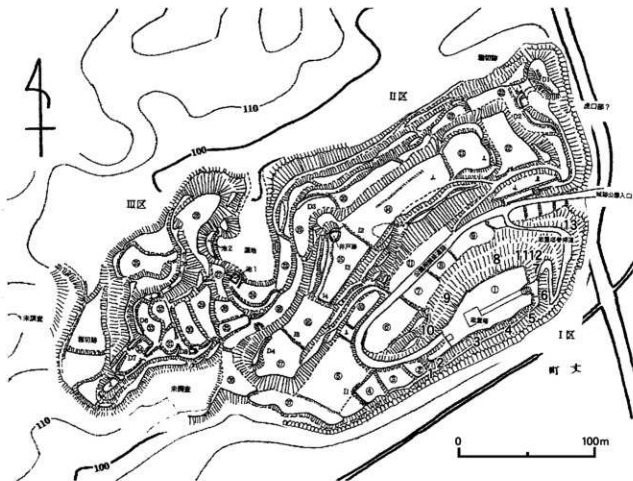
端部にあり、麓との比高差は約40mを測る。眼下に平田集落、市指定有形文化財馬溪橋を見下ろす。平田城跡は、国指定名勝那馬溪の中で「平田城跡の景」としてその構成要素の一つとなっている。

『下毛郡誌』によると「白米城趾、城井村大字平田にあり。平田氏代々野仲家に属し当城の城番たり。黒田氏の時には老臣栗山備後利安居る。(中略)城趾今も城口、城後、本丸、西丸などいふ字を残す」とある。黒田氏入部頃の平田城は下毛の在地領主である野仲氏の影響下であり、野仲氏滅亡後はその旧領が黒田家重臣の栗山善助(利安)に与えられたものと考えられる。

平田城は南北270m×東西340mの規模で、城は浅い谷によって南北に区切られている。広い平場がある南台(Ⅰ区)には、日露戦争戦没者の忠霊塔が建立されている。平成19年、北部九州中近世城郭研究会により縄張り測量が行われた。Ⅰ区や谷を挟んだ北側(Ⅱ区)、その西側(Ⅲ区)の曲輪などの遺構が図化され、Ⅱ区の曲輪法面の石垣は織豊期の遺構と報告された⁽⁴⁾。平成25年度、遺構群全体の踏査を宮武正登氏(佐賀県教育庁文化課:当時)と行い、Ⅰ・Ⅱ区の石垣の一部は織豊期であり、広範囲にそれらが遺存する可能性が指摘された。今回、Ⅰ区を中心に石垣がどの程度広がりをもつのか、またどのような状態なのかを把握するため、石垣の表面

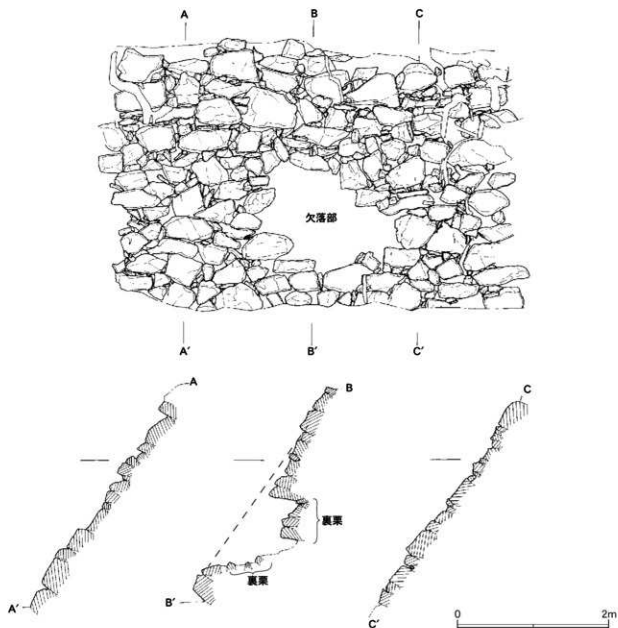


第5図 調査区位置図 (S=1/25,000)



第6図 平田城跡縄張り図 (S=1/2,700)

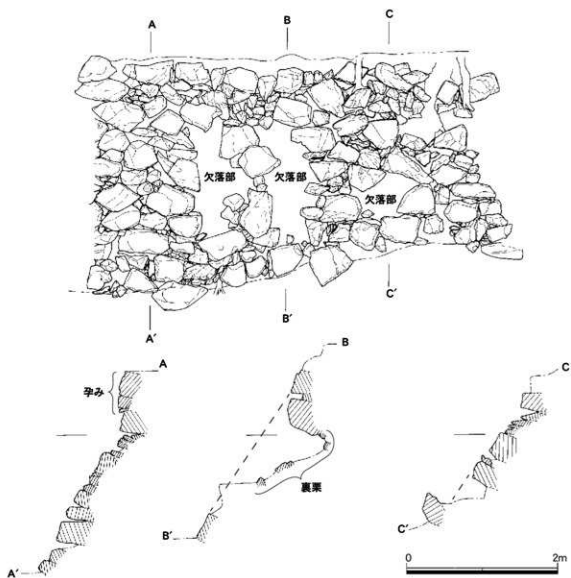
(北部九州中近世城郭研究会「北部九州中近世城郭情報誌15」2008より一部改変。等高線図は中村修身氏より提供)



第7図 9面築石欠落部1 (S=1/50)

を覆う土・草を除去し確認を行った。崩落防止のため石垣下部の土は基本的に掘削していない。作業で確認した石垣は面毎に1～13の番号を付け、現状を撮影した。

石垣は忠霊塔のある1区の北・東・南斜面、周囲180mで確認できた。1面、2面の石垣は築石2列分程度が見られる。3～5面は長さ81m、高さ1m程の石垣が巡る。石垣の孕みや抜けが多い範囲であり、落下の恐れのある3面天端石の一つを記録後取り外した。6面石垣は石垣の上面だけ表出している。7面石垣は参道工事やトイレ用の水道管工事により一部損壊している。6面と7面はもともと一つの石垣面を構成していた可能性もある。8面は長さ40m、高さ1m強を測り、天端の石が崩落している箇所がある。9面は長さ40m、高さ約2.5mを測り、平均勾配角度は56°である。北側と南側端部に隅角部があり、北側は築石が2列程度残存する。南隅角部は良好に残り、根石付近の石が築石より小さいことを確認している。石垣は、1580年代後半期の特徴をもつ⁽⁹⁾。9面は築石の欠落が目立ち崩落の危険が考えられたため実測図を作成した。石垣は「布目崩し積み」を用いて築かれている。石の長軸を横に置くことを基本とし、「落とし積み」は見られない。中津城などに見



第8図 9面築石欠落部2 (S=1/50)

られる古い石垣の特徴を有する。現在のところ平田城の石垣に矢穴痕は確認していない。石材は、平田城の所在する丘陵の岩盤から調達したものと推測する。地質区分では輝石角閃石デイサイト溶結凝灰岩及び非溶結ガラス火山灰及び軽石とされる阿蘇4火砕流堆積物である。叩くと割れ易い凝灰岩であるため、鉄矢を使用する必要がなかったのかもしれない。10面は昭和年代に造られた公園用舗装道路下に伸びているため残存状況は不明である。11・12面は7・8面隅角部下に見られる石垣で、7・8面下に犬走り状の空間があり、その法面に構築された石垣と考えられる。13面は参拝道横の張り出し部に構築された石垣である。孕みが目立つため、今後、この面を含め石垣のネット掛け工事を行う計画である。

備前焼の甕などが4面石垣清掃時に出土しているが、破片であり時期は明確にできなかった。

平田城は、黒田官兵衛が豊前に入部した時期に構築された可能性が高い。これまで宇佐の高森城を除き実態の不明であった黒田氏による豊前支配の支城形態を知る上で貴重な遺構である。また、近世城郭の完成過程を考える上でも重要な遺構であり、引き続き城の保全と調査を行っていきたい。

- (1) 熊谷克己『豊前古城誌』1903
- (2) 大分県教育庁埋蔵文化財センター小柳和宏氏ご教示。ちなみに発掘調査では明確な遺構は見発見されていない。
- (3) 大分県下毛郡教育会『下毛郡誌』1972
- (4) 村上勝郎・田中賢二・中村修身「中津市所在の平田城（町丈城）調査報告」『北部九州中近世城郭情報誌15』2008
- (5) 宮武正登氏ご教示、氏は「近畿地方で独特の発達を遂げた「算木積み」を基調としているが、角石の法量の規格化が進んでいない。わずかに横軸の最大長に統一性が窺えそうだが不完全で、整形加工の意識も非常に低い。角稜線は全体としては未発達な状態だが、部分的に工具での投打による調整が見て取れ、中位付近では天正年間後半から顕著なる「瘦せ隅」の形態も認められる。
角石間に挟まれた介石（「ハサミ石」とも）の使用による角度調整を駆使しながら、「矩方」のみの直線的勾配が保たれている。隅脇石の意識は全く希薄で、間詰石の集中により対応している箇所が多く、文禄・慶長期の石垣よりも未発達な点が表れている。近江八幡城（滋賀県・天正13年）、有子山城（兵庫県・天正8～13年か）等との技法的類似性が指摘でき、中津城本丸南面石垣にも一致する点は多い。1580年代後半期の時代相を有する石垣と評価できる。」とする。



写真1 上秣城跡近景（東から）



写真2 横堀①

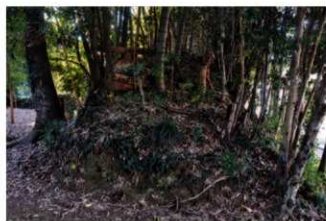


写真3 曲輪Ⅱ土塁



写真4 石塔群1



写真5 石塔群2



写真6 現地指導風景



写真7 遠景向かって左は馬溪橋、右の丘陵は平田城跡

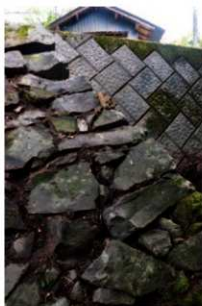


写真8 9面南隅角部



写真9 9面築石清掃後



写真10 9面築石清掃前



写真11 9面築石欠落部2



写真12 13面築石

第3章 市内遺跡試掘確認調査

諸田遺跡

1. 調査に至る経緯

諸田遺跡は弥生時代、古墳時代の集落跡、中世の居館として周知される。平成14年度から21年度まで県営農業基盤整備に伴う発掘調査が実施され、大規模な古墳時代の集落跡や中世の居館などが調査された。平成26年1月31日に大分県北部振興局より県営農道建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の照会を受け協議した。協議の結果、確認調査を26年度に実施することが決定した。



第9図 諸田遺跡トレンチ位置図

2. 調査の内容

調査地はJR日豊線の線路沿いに位置する。重機を使用するには列車見張り員及び工事管理者の資格を有する人員配置が必要になるため、人力で掘削をおこなうことが決定した。調査区に9本のトレンチを設定し、東側から掘削をおこなった。1トレンチではビット数基が確認された。2トレンチでは竪穴1基、ビット数基が確認された。竪穴の検出表面でカマドの部材の一部が確認されたので、住居跡と推測される。3トレンチ、4トレンチでは近現代の地下げがおこなわれた状態であったが、遺構が確認された。5トレンチでは溝状遺構、ビット数基、6トレンチ～9トレンチはビット数基が各トレンチで検出された。

3. 今後の措置

今回の確認調査で遺跡が確認され、諸田遺跡の範囲変更がおこなった。1トレンチ、2トレンチは平成18年度～21年度まで実施した調査区に隣接することから古墳時代後期の集落跡の一部と推測される。谷状地形を挟んだ西側の丘陵上は、僅かに遺構が確認される。この結果から大分県北部振興局と協議し、遺跡の発掘調査が決定した。



写真13 諸田遺跡2トレンチ



写真14 諸田遺跡5トレンチ



写真15 諸田遺跡6トレンチ

報 告 書 抄 録

ふりがな	中近世城館確認調査(2) 市内遺跡試掘確認調査		しなしいせきしつうかくにんさうさ					
書名	中近世城館確認調査(2) 市内遺跡試掘確認調査							
副書名	市内遺跡発掘調査概報							
巻次	8							
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第72集							
編集者名	花崎 徹 浦井 直幸							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2015年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中近世城館確認調査(上林城跡)	大分県中津市三光上株1004番地	44203	203195	33° 31' 50"	131° 14' 35"	20140609 ~ 20140717	-	確認調査
中近世城館確認調査(平田城跡)	大分県中津市耶馬溪町大字平田1101番1	44203	203228	33° 28' 22"	131° 08' 45"	20140811 ~ 20140825	120㎡	確認調査
諸田遺跡	大分県中津市大字諸田1260番地1他	44203	203090	33° 34' 32"	131° 15' 04"	20140522 ~ 20140529	142㎡	県営農道整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中近世城館確認調査(上林城跡)	中世城館	中世	曲輪・堀・土塁	-		曲輪・横堀が良好に残存。		
中近世城館確認調査(平田城跡)	中世城館	中世	石垣	陶磁器		天正後半期の石垣を検出。		
諸田遺跡	集落跡	古墳・中世	柱穴・竪穴	-		隣接地では古墳時代の大規模な集落が調査されている。		
要約	中近世城館確認調査では、上林城跡で主郭部の曲輪や横堀などを確認した。周辺の長方形区画などは家臣層などの屋敷と想定される。平田城跡では、天正後半期の石垣が大規模に残ることを確認した。黒田官兵衛豊前入部に伴い構築された支城の一つと考えられる。近世城郭の成立過程を考察する上で重要な城郭である。							

**中近世城館確認調査(2)
市内遺跡試掘確認調査**

市内遺跡発掘調査概報 8

中津市文化財調査報告 第72集

2015年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 藤川原田印刷社